



南会津町立田島小学校だより

令和6年3月21日発行

田島小だより

No. 19

みつけるぞう

まけないぞう

がんばるぞう



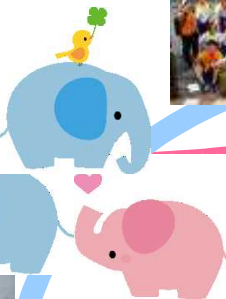
本年度1年間の「3匹のぞうさん」と「魔法のランプ」

今年度は「3びきのぞうさん」に加え、夢実現の「魔法のランプ」をキーワードに、学校教育活動を進めてきました。それぞれの学びの中に、子供たちの成長を見ることができました。これも子供たちのがんばりに加え、お家の方々の励まし等ご協力があったためです。以下に本年度活動の様子を載せますので、各家庭で話題にいただければと思います。

来年度も、子供たちの健やかな成長のため、教育活動を進めていきますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いします。

<がんばるぞう>

学校のため、自分たちのためにがんばった「田島っ子」



<まけないぞう>

運動・食事などに一生懸命取り組み、病気などに負けない「田島っ子」



<みつけるぞう>

自分や友達のいいところ、南会津のいいところをたくさん見つけた「田島っ子」

<夢実現するゾウ>

自分の得意なこと、大好きなことをもとに、将来の夢を考えた「田島っ子」



「学校だより」から1年間を振り返ると

今年度の学校だよりは今回で19号となりました。

今年度は、コロナが5類相当に移行し、様々な制限がなくなりました。その流れでコロナ禍で簡略化されたことを、今後どうするのか考えなければならなくなりました。例えば「運動会」。午前中開催でもねらいを達成できることから、次年度以降も同様の開催とさせていただきました。

その他、種々の研修、会議がオンラインで行っていました。保護者の方が対象の研修等も中止ないしはオンラインとなりました。コロナ禍あけ、ねらいの達成の観点から多くの研修・会議が参集型での実施が増えつつあります。

その理由の一つに「関係性の希薄さの解消」があります。校内においても縦割り班での活動がなくなり、各学年ごとの活動だけでは、子供たちの関係性は希薄になりがちでした。保護者の方々にあっても、互いの関係性が希薄になり、情報交換等がスムーズにいかないケースがあったのではないのでしょうか。子育てや子供同士のトラブルに悩みを持たれた方も多かったと思います。

そのような状況下で、本年度の学校だよりでは

「モデリング」・・・子供たちに望ましい行動思考のためには環境が重要であることを記しました。

「飛び込む勇気と受け入れる寛容」・・・大人も子供も関係を築き上げるためには、両者に「勇気」と「寛容」が必要であることを記しました。

「信頼関係」・・・子供の健やかな成長のため、その場でしかれる保護者間の信頼関係が重要であることを記しました。

ある方より、「この保護者間の信頼関係ができていないために、下校後であっても、子供たちのトラブルの解決を学校にお願いしているのではないか。学校を忙しくしている一つの原因になっているのではないか。」との感想をいただきました。

子供のためとなれば、学校は取り組みますが、確かに下校後、家庭やスポ少など社会教育関係でのトラブルをその場で解決していただければ、学校の負担は大きく減ります。そのためには、やはり、保護者間の信頼関係づくりが大切かと。学校での行事だけではなく、PTAの活動(各学年行事・地区行事・専門委員会行事等)などを活用していただければ幸いです。

「大変さ」3割「楽しさ」7割で・・・。

本年度本校で重点をおいて取り組んだものとして「キャリア教育」があります。自分の夢実現に向け、今できることを意識させ、取り組ませることを目的に進めています。ここで残念なことがありました。それは将来の夢として「先生」をあげる子供が少ないことです。

先の「モデリング」において、環境は子供にとって重要であると記しました。様々な報道等において先生の仕事の楽しさが報道されるのは「入学式・卒業式」の時期が主で、その他は不祥事や仕事の大変さに関わるものがここ近年多いように感じます。「環境は子供にとって重要」と考えると、教員への夢を持つ子供が減ってしまう要因の一つにこの環境があるのではないかと。ぜひ、家庭にあって、先生の仕事についてはできるだけプラスの話をしていただけるとうれしいです。学校内においても教員としての楽しさを子供たちには示していますし、今後もそうしていきたいと思います。(地元出身の教員がいないことも課題です。)



これと同じことが「少子化」にも起こっているのではないのでしょうか。子育てについての報道等は子育ての大変さ(金銭面・しつけ・・・)が多いと思います。「赤ちゃんがにっこり笑った時の楽しさ、食事を美味しそうに食べた時の楽しさ、逆に食事を作ってくれた時の楽しさ、『おはよう』と元気にあいさつしてくれた時の楽しさ、スポ少・部活で一生懸命運動している様子を見た時の楽しさ・・・。」子供たちのまわりの情報は、「大変さ」にあふれていて、「楽しさ」は意図的に示していかないと「子育ては大変だ。」と思わせてしまうのではないのでしょうか。子育てをしている方のメンタルを考えると「大変さ」を示し、気分を軽くすることも重要です。ぜひ「大変さ3割・楽しさ7割」であってほしいです。

子育てを楽しみと思った子供たちは、大人になり、自分も子育てをする楽しさに触れようとするはず。この「子育ては楽しいというイメージ」を持たせることが、少子化に歯止めをかける上で重要なのではないのでしょうか。金銭面でも必要ですが、お金が多くあっても、一人の子にかけられる額が増えるだけでは少子化に歯止めはかからないように感じます。

ぜひ、今の子育てが、ここだけで終わるのではなく、この子の「子育て観」の形成にもつながる重要なことであると意識して取り組んでいただければと思います。 自戒の念を込めて。